

檀信協だより

発行 静岡県中部檀信徒協議会

Vol.26

平成28年9月1日発行

編集 静岡県中部宗務所教化センター
http://www.myouhou.com/

一言ご挨拶申し上げます。
この五月で、就任二年に入りました、日蓮宗静岡県中部宗務所長の中條でございます。何卒、よろしくお願ひ申し上げます。

静岡県中部宗務所管内の檀信徒の皆様には、常日頃菩提寺へのご丹精、誠に有難く、厚く御礼申し上げます。併せて、駿河の法華信仰の伝統をお護りいただきますこと、深甚の敬意と謝意を表します。

駿河法華信仰の伝統の拠り所となります聖語が、左の一文です。

かえすがえす。するが(駿河)の人々みな同じ御心と申させ給い候へ。
(浄蓮房御書・三沢抄)

さて、日蓮宗の宗門運動の現況につきまして一言申し添えます。基本的には昨年と同様であります。

宗門運動「立正安国・お題目結縁運動」は、昨年の平成二十七年年度から第三期開花運動に入りました。

この第三期の開花運動並びに第四期の結実運動の七年間は、日蓮大聖人ご降誕八百年に重点を置いた宗門活動を展開することを前提に、平成二十八年度の布教方針も「合掌く組織で動く」と定められました。

祖願達成を目指して、宗門のあらゆる



宗務所長の「ごあいさつ」
静岡県中部宗務所長
本山 海長寺 中條 暁秀

日蓮上人の「六老僧」と称してあります。その中のお二人(日頂・日持)が静岡県出身です。

今年はその中のお一人の日頂上人の七百遠忌に相当し、去る四月八日、昨年檀信徒協議会総会の会場となりました北山本門寺様(富士宮市北山)で遠忌法要が営まれました。

日蓮上人は日頂上人のことを「器量もの」(富木殿御返事定遺七四三頁)と賞賛される程の人物で、また、日頂上人の母の富木尼御前宛ての「富城殿女房御前御書」(定遺一七一〇頁)には日頂上人が「学生」になったことを伝え、あなたの傍には伊予房がいるのだから、仏教の教え、法華経の教えをお聞きなさいと、言葉をかけております。尚、「学生」とは仏教の学問を身上とする学僧のことをいいます。

越えて、日蓮聖人入滅(一一八二)の前後の頃合い、日頂上人は下総若宮(現中山法華経寺)に赴き、自坊の真間山弘法寺(市川市)を中心に下総一帯の教化に当たっておりましたが、永仁のはじめの頃(一二九三年頃)日頂上人四十九歳、卒然として富木常忍の

る組織をフル稼働して、布教方針を宗門全体の隅々まで行き届らせ、一人でも多くの人たちに、日蓮宗の「合掌」を伝えていくことが大切だということです。檀信徒皆様のご理解とご協力を願ひいたします。

静岡県出身の六老日頂上人

日蓮聖人のお弟子の中で特に有名な六人を「六老僧」と称してあります。その中のお二人(日頂・日持)が静岡県出身です。

今年はその中のお一人の日頂上人の七百遠忌に相当し、去る四月八日、昨年檀信徒協議会総会の会場となりました北山本門寺様(富士宮市北山)で遠忌法要が営まれました。

それにしても「本弟子」であり「六老僧」の一人として崇められた僧としては、余りにも、静寂に包まれた入滅の姿といっても、過言ではありませぬ。下総八幡庄の真間山弘法寺住持であった日頂上人に対し、日蓮聖人は「伊予房は器量ものにて候ぞ」と嘉賞されたほどの日頂上人が、何故退出されたのか、その原因は、その理由は何辺に。謎は謎を呼ぶところですが、わかりませぬ。

そして、重須に戻られた日頂上人は、白蓮日興上人が創設した門下の教育機関(重須談所)で興学に専念して、大いに気を吐きました。文保元年(一一三二)三月八日、六十六歳の故郷で入滅されました。

その墓所は富士宮市北山正林寺にあります。皆様是非、日頂上人の墓参にお出かけ下さい。

『正法』一四七号の拙稿「御遺文を繙く」をご覧ください。

もとを去り、真間山弘法寺を退出して、故郷の重須に隠棲されました。

この日頂上人の突然の退出理由について古来所伝では、若宮で行われた日蓮聖人の三回忌法要に遅参したことが原因で、富木常忍に勘当されたといいますが、八年後の正徳五年(一一二九)まで、真間山に在りしていたので、信は置き難い所。

また、真間山俗別当の及河宗秀が日頂上人を排斥したといいますが、明白ではありません。(ただし及河宗秀の息の日陽上人が日頂上人の後継となっていることから、この説が生まれたものでしょう。)

宗門運動
「立正安国・お題目結縁運動」平成34年3月31日まで
平成27年度より宗門運動は第3期開花活動に入りました

管区テーマ
『ひろめよう合掌の心』

日蓮聖人 降誕八〇〇年

日蓮宗静岡県中部宗務所提供ラジオ番組
『ひろめよう合掌の心』
毎月第4日曜日放送

いのちに合掌

御殿場地域 FM御殿場「富士山GOGOエフエム」
86.3MHz 第4日曜日 午前9:50~10:00

沼津地域 FM沼津「コーストFM」
76.7MHz 第4日曜日 午前9:30~9:40

清水地域 FM清水「マリンパル」
76.3MHz 第4日曜日 午前9:44~9:54

静岡・焼津地域 シティーFM静岡「FM-Hi」
76.9MHz 第4日曜日 午前9:50~10:00

島田・藤枝地域 FM島田「G-sky」
76.5MHz 第4日曜日 午前10:00~10:10

過去放送分も宗務所ホームページから聴取できます
http://www.myouhou.com
今までの放送分のCDを貸し出します

好評放送中! 富士山南西麓日蓮宗寺院提供『らじおのおてら』放送中

ラジオ エフ
富士・富士宮地域 富士コミュニティーFM「Radio-f」
84.4MHz 第1、第3水曜日 午後4:20~※内容は仏教を伝える番組ですが、『ひろめよう合掌の心』とは異なります

静岡県中部布教師会
月例講話
毎月第2木曜日(10月は変更あり)

■13時30分 開場 ■14時 開会(15時30分終了予定)
■会場: 静岡県中部宗務所 富士市岩本2184-2 霊跡本山實相寺内
■募集定員: 各回30名 ■参加費: 無料 ■締め切り: 各回5日前までとさせていただきます
■問合せ先: 円恵寺(えんねじ) 富士宮市大久保216 電話0544-65-0178

日蓮宗静岡県中部宗務所
〒416-0901 静岡県富士市岩本2184-2 實相寺内 TEL0545-64-6668
開所日: 月・木・金 10:00~16:00
http://www.myouhou.com/

静岡県中部宗務所檀信徒協議会総会

於静岡市グランシップ



六月十四日、静岡県中部宗務所（中條暁秀所長）主催による、平成二十八年度檀信徒協議会総会が静岡市グランシップにて行われ管内寺院代表の檀信徒約百名が参加した。

総会では檀信徒協議会掛川洋一会長（静岡市宗長寺）、中條暁秀所長より挨拶があり、その後議事に基つき慎重審議がなされた。

総会終了後、静岡県中部宗務所顧問 貫名英舜上人により「日蓮宗檀信徒のこころえ」日蓮宗の信仰の基本」という講義で講義を賜った。貫名上人はまず日蓮宗宗憲を読み、日蓮宗の宗旨を再確認し、我々が何を目指しているのかを語った。次いでインドから日本に至る仏教の歴史を解説し、大乘仏教徒である我々は信仰を他へ伝えることが肝要であると説き、檀信徒の皆さんの力が不可欠であると結んだ。



身延山大学公開講座

日時/ 11月28日(月)
午後2時から
会場/ 富士市交流プラザ

一食一元アシスト募金・写経継続中
ご協力をお願い申し上げます。

11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	区
横山	掛川	鶴牧	望月	野村	稲葉	遠藤	市川	影山	鈴木	井出	代表者氏名
武	洋一	日登志	璋三	晏弘	英二	藤勝己	仁	精一	義和	雅夫	菩提寺 役
蓮性寺	宗長寺	建徳寺	法蓮寺	円恵寺	興徳寺	西之坊	本秀寺	実相寺	浄光寺	圓藏寺	監 査
	会 長	副会長			監 査	副会長		副会長			

講話 「日蓮宗檀信徒のこころえ」

日蓮宗の信仰の基本

富士宮市常泉寺 貫名英舜

日蓮宗とはどのような教団なのか。どのような歴史の経過の中で現在に至り、現在どのような教団として存在し、未来にどのような方向に向かって行こうとしているのか。これらを知ることは、現在、日蓮宗のお寺の檀信徒代表としてお務めいただいている方々にとっても、大切なことであると思います。

昨年度は、日蓮宗の総本山身延山を中心に大本山、本山を核として、全国に五千の寺院、教会、結社があり、八千人の教師（僧尼）があり、文科省届け出の信徒数三百八十五万人の信徒を有する組織であり、象徴としての管長、実務の責任者としての宗務総長、その実務を担う東京池上にある宗務院、そしてその地方での行政組織である宗務所という存在についてお話ししました。

今年、日蓮宗の信仰とは何か。何を信じ、どのような実践をすることが求められているかについて、日蓮宗「宗憲」を解説することで理解していただくことから始めます。

【伝統】第一条 日蓮宗は、久遠実成本師釈迦牟尼仏から、その本懐である法華経を、末法に弘

通することを付囑された、本行上菩薩の応現日蓮聖人が開創唱導した真実の仏法を開顕する仏教正統の宗団である。

【宗旨】第二条 日蓮宗は、本門の本尊を帰依の正境とし、本門の題目を信行の要法とし、本門の戒壇を依止の戒法とする三大秘法を宗旨として法華経を行じ且つあらゆる思想を開顕して妙法に帰せしめ、もって即身成仏、仏国土顕現を思想とする。

【本誓】第三条 日蓮宗は、不惜身命の経意を体し、異体同心の祖訓を奉じ、祖山中心の信仰を堅持し、皆帰妙法の祖願達成に精進することを本誓とする。

これだけ読まれて、難しいとお感じになるのは自然なことです。この一語一語には仏教が興つて以来二千五百年、日蓮聖人立教開宗以来七百五十年、明治近代日蓮宗成立以来百四十年、また、戦後日蓮宗七十年という歴史の折り重なりの中で、今に伝えられているものであるからです。

先に、要点をまとめれば、次のようになります。すなわち、法華経は釈迦牟尼世尊が説かれた唯一の真実経典であり、法華経に示された久遠の本師釈迦牟尼佛を本尊と仰ぎ、日蓮聖人が感得せられたお悟りの世界のご図頭である大曼荼羅（十界曼荼羅）を

目の前にして、南無妙法蓮華経とお題目を自ら唱えることが本宗の修行実践であるということになります。

また、それは自らの修行に留まらず、「自行化他」の実践でなければなりません。「自行」とは自らお題目修行に励むことであり、「化他」とは一人でも多くの人に法華経、お祖師さまの教えを伝え、ともどもお題目を唱える輪を広げること、精進することです。そして、その向こうに平和で争いのなく喜びを分かち合う世界を実現すること、これを「皆帰妙法」であり「仏国土顕現」というのですが、こういう世界を未来に創り上げること、すなわち「立正安国」が目的となります。この目的達成のためには、僧俗の区別はありません。ともに心をつなげて進まなければなりません。日蓮宗は僧俗一体、異体同心の伝道教団なのです。

なお、お題目の修行は自らの「成仏」を得ることです。「成仏」には深い意味があり、一言ではそれを言い表すことは出来ませんが、私は、それは自らの人格の陶冶、人間として生まれた限りにおいて、人間として最高の人格を完成させることで「安心立命」の境地を得ることであると申し上げておきます。

生まれ合わせた煩惱多き存在においても、もし、信心が正しく決定すれば絶対に可能であると教えられたのがお祖師さまです。このお祖師さまの私たちに對するお導きを信じるか否かはみなさんの意志に關わつてきません。この意志こそが、つまり、お祖師さまの教えに身を委ねるか否かということが「信心」、信仰の精神であると強く申し上げるところです。

さて、現在の日蓮宗は釈尊以来二千五百年の時間経過の中にあるということはすでに申し上げたところです。法華経は釈尊の言説がおよそ二千年前にインドでまとめられ、大乘仏教の経典としてシルクロードを経由して中国に伝わり、鳩摩羅什（344～413）によって漢訳され、それが日本に流伝しました。また、法華経についての哲学的な研究が隋唐の時代に進められ、天台大師（538～597）によって完成され天台宗が成立します。この天台の教えを日本に輸入した方が後に比叡山を開かれた伝教大師（767～822）です。日蓮聖人（1222～1282）はこの天台大師、伝教大師の教えの流れを正しく受け継いだ方であるということです。その教えを信じる私たちは、歴史を過去に辿れ

戦後の日蓮宗の宗門運動

- 1954 立正平和運動
- ◎世界の平和のために
- 1966～72 護法運動
- ◎日蓮聖人に学ぶ報恩
- 1972 護法統一信行
- ◎お題目を唱える
- 1981
- 宗祖日蓮聖人第七百遠忌
- 1985～2003
- ◎お題目を人に勧める※誓願
- 2002
- 立教開宗七百五十年
- 2007
- 立正安国・お題目結縁運動
- ◎祖願達成に向けて※合掌
- 2021
- 日蓮聖人御降誕八百年